

エス・イー・シーエレベーター株式会社

エレベーター業界を変えた苦勞と それを乗り越える強い信念 全ては「お客様の為」



企業プロフィール

社名	エス・イー・シーエレベーター株式会社
代表者	代表取締役会長 鈴木孝夫
本社	東京都台東区台東 3-18-3 SEC ビル
URL	http://www.secev.co.jp
創業	1967 年 6 月
資本金	28 億円



卒業生・創業者・会長

鈴木 孝夫

1943 年生まれ。岩手県平泉町出身。
東京電機大学電機学校卒業後、菱電サービス（現：三菱電機ビルテクノサービス）に入社。1967 年同社を退社し、独立・創業する。1970 年有限会社鈴木エレベーター工業を設立。1978 年エス・イー・シーエレベーター株式会社 代表取締役社長に就任。2013 年代表取締役会長兼 CEO に就任。現在に至る。

沿革

- 1967年 ● 東京都杉並区下高井戸にて業務を開始 (6月)
- 1970年 ● 有限会社鈴木エレベーター工業 (代表取締役 鈴木孝夫) として会社設立 (11月)
- 1972年 ● 千代田区神田鍛冶町・大貫ビルに本社移転 (8月)
- 1976年 ● 株式会社鈴木エレベーター工業に改組 (1月)
- 1978年 ● エス・イー・シーエレベーター株式会社に社名変更 (7月)
- 1981年 ● 定款の変更／エレベーター、小荷物専用昇降機、自動ドアの製作、販売据付、保守管理を主業務及び建築物に対する保守管理、工事を業務とする。(6月)
- 1985年 ● 台東区台東に本社ビル竣工移転 (8月)
- 1987年 ● 定款の一部変更／不動産の売買、管理、賃貸並びに仲介、建築物の設計、施工及び工事管理並びに保守管理業務を加える (4月)
- 1992年 ● 新本社ビル竣工移転 (5月)
- 1997年 ● エレベーター製造許可取得 (12月)
- 2000年 ● ISO9001 認証取得 (2月)
- 2005年 ● OHSAS18001 認証取得 (本社) (1月)
- 2006年 ● ベターリビング 優良住宅部品 (BL 部品) 認定 (1月)
定款の一部変更／損害保険代理店業を加える。(8月)
- 2008年 ● 巻上機ダブルブレーキ開発 (実用新案登録証 登録第 3146458 号) (10月)
- 2009年 ● 戸開走行保護装置 性能評価認定書取得 (11月)
- 2012年 ● 定款の一部変更／サイネージ事業、太陽光事業、ビル管理事業、LED 事業等を加える (8月)
特定建設業 (電気工事) 許可取得 (11月)
- 2015年 ● 千代田区鍛冶町の神田中央通りビルを購入、東京本社として定める。
- 2017年 ● 定款の一部変更／無煙無臭焼却炉事業を加える (3月)
創業 50 周年を迎える (9月)

事業内容

- ▶ エレベーター・エスカレーターの保守管理業務 (定期点検、法定検査等 ※全メーカー対応)
- ▶ 自社製エレベーター・エスカレーターの設置・施工・リニューアル工事
- ▶ エコ関連事業
- ▶ デジタルサイネージ事業
- ▶ 警備事業
- ▶ 太陽光発電事業
- ▶ 環境事業 他

卒業から創業まで

私は岩手県平泉町で生まれ、単身上京した頃、一般家庭では「三種の神器」がブームとなっている時期で、これからはあらゆる電化製品の時代が来ると予感し、一番目に電気店に就職しました。働きながら東京電機大学電機学校で勉学し卒業後、大手エレベーターメーカーに就職しました。

その後、2年半で独立し中小エレベーターメーカーの下請けとして、保守管理をメインとし、工事関係も請け負いました。

当時のエレベーターは多々不具合や故障が多く、苦労しましたが、個人として不具合のあるエレベーターは、自分で回路を作り、またより良い部品を使用しました。

エレベーターというものの安全性 (故障しない・事故が起きない) を自分で考えた事は、非常に人生の勉強になり、血となり肉となり、自分自身が鍛えられました。

実力が付き、あらゆるエレベーターの保守管理・修理工事等が、全世界のエレベーターに通用すると判断し、独自の企業体を創り上げる事が出来るとチャレンジを決意しました。

その中での困難

しかし、メーカーの独占的な市場であったエレベーターメンテナンス事業は、今で言う闇カルテルを結んでいるような業界でした。

当時、メーカーは純正部品でなければ危険であるという事で、しぶしぶメーカーに純正部品を購入する旨、お願いをしました。が部品は供給出来ませんでした。停止したままの状態を何日も何時間も放置する訳には行きません。

そこで、私はお客様の所有物であるという事を信念に思いお客様より部品の委任状を頂くようにして、お客様と共にメーカーへ部品の交渉にあたりました。

しかしながら、部品等は在庫してもらえません。また考えました。

それではと、国の機関である公正取引委員会に訴えました。独占禁止法違反になるのではないかと意味です。

この訴えが合法に取り上げられ、部品の供給はスムーズになりました。

お客様との絆がより深まり、お客様と手を取り合い喜び合いました。

お客様に迷惑をかけるような企業であってはならない。この言葉が社会に通用した事が我が社の始まりです。

社会人となる皆様方へ

まず学生時には、自分の向上心が社会に当てはまる、または商品に当てはまるような勉強をしてもらいたい。

その後、卒業という事になりますが、信念を持って覚悟を決めて、苦しさにチャレンジしてもらいたい。

自分自身が好きな道に入るのが、自分の能力が発揮され、人間関係も深まる事にもなります。

人と人のつながりの大きさが、自分自身を大きく育てるものと思っています。

最後に、あなたがたの将来の実力を社会の為にしたいという一念は、フロンティアスピリッツをいくつになっても忘れず、永久に自分を奮い立たせてもらいたい。必ず幸せにつながります。

採用情報

エス・イー・シーエレベーター株式会社 総務部人事課
〒110-0016 東京都台東区台東 3-18-3 SECビル
TEL : 03-3833-1174

東京電機大学創立者 廣田精一が創業 科学技術全般を網羅する 100年続く出版社



代表取締役社長

村上 和夫

Murakami Kazuo



企業プロフィール

社名	株式会社オーム社
代表者	代表取締役社長 村上和夫
本社	〒101-8460 東京都千代田区神田錦町 3-1 TEL : 03-3233-0641 (代) FAX : 03-3291-2156
URL	http://www.ohmsha.co.jp
創業	大正 3 年
資本金	9,800 万円



創業者

廣田 精一

Hirota Seiichi

明治 40 年 電機学校創立

大正 3 年 電気雑誌『OHM』を創刊して
オーム社を創業

東京電機大学とオーム社

オーム社の創業は、大正 3 (1914) 年、電機学校（現東京電機大学）の創立者である廣田精一が電気雑誌『OHM』を創刊したことに始まります。当時電機学校にはすでに出版部がありましたが、廣田は「広く日本全国の青年電気技術家を相手として、それ自ら成り立って行ける電気雑誌の発刊に想い（オーム社 75 年史より）」が深まり、電機学校校長の扇本眞吉と教頭の丸山莚三を説いて事業を開始したとされています。『OHM』の誌名は、オームの法則で知られるゲオルグ・シモン・オーム博士からとったとも、「扇本」「廣田」「丸山」の頭文字からとったとも言われています。

沿革

- 大正 3 年 ● 電気雑誌『OHM』創刊とともに創業。
- 大正 7 年 ● 書籍第一号『百故障失策』刊行。
- 昭和 11 年 ● 『電気工事読本(全3巻)』ベストセラーとなる。
- 昭和 32 年 ● 検定教科書発行開始。
- 昭和 39 年 ● 創業50周年。10大ハンドブック刊行。
- 昭和 53 年 ● 神田錦町に現在のオームビル落成。
- 平成 7 年 ● ベストセラー『マスタリングTCP/IP 入門編』刊行。
- 平成 16 年 ● ベストセラー『マンガでわかる統計学』刊行。
- 平成 26 年 ● 雑誌『OHM』100周年記念号を発売。11月1日に創業100周年を迎えた。



▲ オーム社の歴史に残る出版物

事業内容

- ▶ 書籍の発行・発売
- ▶ 雑誌の発行・発売
 - 定期雑誌『OHM』『新電気』『電気と工事』『設備と管理』『ロボコンマガジン』
- ▶ セミナーの企画・運営



▲ オーム社の出版物

会社紹介

創業以来、科学技術関係の書籍および月刊誌を発行。その分野は、情報科学、情報通信、電気電子、応用物理、機械制御、土木建築、空調衛生設備、化学環境、生命科学、医用電子など理工学全分野に及びます。

書籍は、教科書、技術専門書、英文を含む学術専門書から一般書、実用書、資格試験参考書にいたる多彩な単行本を多数刊行。『電気工学ハンドブック』に代表される大型本なども発行しています。近年は、電子書籍の制作・販売も行っています。

なかでも、「第二種電気工事士」および「電験三種」の資格試験参考書は発行部数が多く、類書の中でも高いシェアを獲得しています。また、マンガ版技術解説書『マンガでわかる』シリーズは好評のうちに巻数を拡大し、海外においても数多くの言語に翻訳されるなど注目を集めています。

定期雑誌は月刊誌『OHM』『新電気』『電気と工事』『設備と管理』、隔月刊誌『ロボコンマガジン』を発行しています。

さらに、オーム社発行商品以外にも、多くの学会や協会、オンライン・ジャパンなどの書籍の販売を行っているほか、各種学会誌やメーカーの技術ジャーナルの販売も行っています。

学生に求めたいこと

理工系の知識はあるに越したことはありませんが、それよりも世の中の動きにいかにかアンテナを張れるかが重要です。読者の方々が知りたい、学びたいこと、自らも知りたいと思うことを企画に落とし込み、著者との対話の中でそれを具体化していく。

最初は何もないところから企画を創り出し、数十年にわたって読み継がれるロングセラーを生み出し、必要とされる人のもとにお届けする。仕事や勉強に必要な専門書や実務書がほとんどのため、派手さこそありませんが、必要とされる本を生み出し、必要とされる方の元へ送り届けるという醍醐味を存分に味わうことができます。

私たちは、何事にも興味や関心を持ち、コツコツと努力を重ねることのできる若者を求めています。

社会に必要とされる本を作り、人々の生活を豊かにすることが私たちの使命です。お付き合いする著者も大学の先生や企業のエンジニアが中心で、私たちの生み出す本が、広い意味で産業界や科学技術を支えています。そんな誇りとやりがいを持って仕事に取り組んでいただきたいと思います。

電大 OB・OG 活躍中！

卒業生 橋本 享祐

平成21年 東京電機大学工学部第一部
電子工学科 卒業
平成21年 オーム社入社
現在 書籍編集局書籍1部書籍1課 勤務

卒業生 本榎 和弘

平成21年 東京電機大学工学部第二部
情報通信工学科 卒業
平成23年 オーム社入社
現在 営業局営業1部営業課 勤務

採用情報

株式会社オーム社
〒101-8460 東京都千代田区神田錦町 3-1
TEL : 03-3233-0641 (代) FAX : 03-3291-2156
お問合せ：総務部

発明家・カシオ計算機 創業者 梶尾 俊雄

社会貢献と未来への継承

計算機技術をベースに社会貢献



▲ 14-A (1957 年)



▲ カシオミニ (1972 年)



▲ カシオトロン (1974 年)



▲ カシオトーン 201 (1980 年)

カシオ計算機株式会社は梶尾四兄弟が 1957 年にリレー計算機「14-A」の開発成功とともに事業化のため設立した。梶尾俊雄が開発した計算機、電卓、時計、電子楽器に加え、デジタルカメラなどの新たな事業を開拓。現在は世界的ブランド「G-SHOCK」を初めとした時計、および関数電卓、電子辞書などを含む教育事業を主力としている。



企業プロフィール

社 名	カシオ計算機株式会社
代 表 者	取締役社長 梶尾和宏
本 社	〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2 TEL : 03-5334-4111
U R L	https://casio.jp/
設 立	1957 (昭和 32) 年 6 月 1 日
資 本 金	485 億 9,200 万円



卒業生・創業メンバー・元会長

梶尾 俊雄

Kashio Toshio

発明家

1940 年、電機学校電気科本科卒業。

同年、通信省に入省するが、発明で社会に貢献する決意を固め退職し、兄・忠雄の経営する梶尾製作所に加わる。

梶尾製作所で数学と電気の知識を生かして忠雄、弟の和雄、幸雄とともに計算機の開発に取り組み、1957 年に世界初の小型純電気式計算機「14-A」の開発に成功。事業化のために四人の兄弟でカシオ計算機株式会社を設立した。

1960 年、同社の代表取締役専務に就任し、一貫して開発部門を陣頭指揮。

1988 年代表取締役会長就任、2011 年名誉会長就任。2012 年に 87 歳で逝去。

沿革

- 1946 年 4 月 ● 東京都三鷹市に榎尾製作所を創業
- 1957 年 6 月 ● 世界初の小型純電気式計算機「14-A」商品化、カシオ計算機（株）を設立
- 1967 年 10 月 ● 世界初のプログラム機能付きの電子式卓上計算機「AL-1000」発売
- 1970 年 9 月 ● 東京証券取引所第 2 部に株式上場
- 1972 年 8 月 ● 東京証券取引所第 1 部に指定替え
- 1980 年 1 月 ● 電子楽器「カシオトーン 201」発売
- 1983 年 4 月 ● 耐衝撃腕時計「G-SHOCK」1 号機（DW-5000C）発売
- 2016 年 6 月 ● 電子辞書「エクスワード」発売以降の電子辞書世界累計販売台数 3000 万台を達成
- 2017 年 8 月 ● 「G-SHOCK」が世界累計出荷 1 億個を達成

開発の功績

1972 年、世界初の個人用電卓「カシオミニ」を発売し、計算機の一般家庭への普及を実現。1974 年、世界初のオートカレンダー機能付き電子腕時計「カシオトロン」を発売。1980 年、さまざまな楽器の音が楽しめる電子楽器「カシオトーン 201」を発売。その後もデジタル技術の応用発展により、情報機器などの分野で多数の発明をおこなった。生涯で取得した特許は計算技術、通信技術、情報技術など多岐にわたり 313 件（共同出願含む）にのぼる。

「14-A」は、1957 年度の科学技術庁長官賞を受賞。また国立科学博物館より科学技術史上の重要性を認定され、同博物館に収蔵された。「カシオミニ」は同博物館により、2008 年、未来技術遺産に登録された。

1984 年藍綬褒章を受章。2000 年米国家電協会より、先駆的な製品を開発した功績で生涯業績賞を受賞。2007 年、東京電機大学より名誉博士号を授与された。



事業内容

- ▶ 時計、電卓、電子辞書、電子文具、電子楽器、デジタルカメラ、電子レジスター、プロジェクター、ハンディターミナル等の開発・営業
- ▶ 独創的な製品開発と多種多様なラインナップで、世界中の人々に夢のある製品を提供し続けていきます。

榎尾俊雄の姿勢と人柄

社会貢献のためにゼロから 1 を生み続けた

榎尾俊雄は社会への貢献を目指して創造し続けた。その発明は、終始、社会への貢献を目指しておこなわれていた。事務の省力化のために計算機を開発し、また複雑な手順を要する科学技術計算を省力化するために科学技術用計算機を開発。さらに一般家庭でも日常生活で使えるよう、個人でも買える個人用電卓を開発した。

榎尾俊雄は計算機の技術を応用し、世の中の人々の生活を便利に楽しくすることを目指して、次々に新しい分野に挑戦していった。「時間は一秒ずつの足し算である」と考えて、計算技術を生かしたオートカレンダー機能を搭載した腕時計「カシオトロン」を開発。メモリーやセンサーなどのエレクトロニクス技術を駆使して革新的な腕時計を送り出し続けた。また楽器の演奏ができない人でもさまざまな音で楽しめるよう、自ら音源を開発し電子楽器を商品化。楽器演奏をより手軽に多くの人に楽しめるようにした。榎尾俊雄は「より多く社会に貢献した企業に利潤はもたらされる」という言葉を残している。

財団設立による大学研究への助成

榎尾四兄弟は、我が国の学術研究の発展と振興に貢献するため 1982 年に「カシオ科学振興財団」を設立し、大学の萌芽的な研究に対する助成活動を開始した。

財団の設立の理由は、かつて四人の兄弟が計算機の開発に多額の資金を必要とし、資金調達に苦心したことにある。同財団は 1982 年から 2016 年までの 34 年間、毎年選考をおこない、2014 年にノーベル物理学賞を受賞した赤崎 勇教授と天野 浩教授の研究を含む延べ 1,200 件以上の研究に対して助成をおこなっている。

榎尾俊雄の発明を伝える記念館

榎尾俊雄が生み出してきた発明品と発明に対する考え方を後世に伝えるため、2012 年に榎尾俊雄の長男である榎尾隆司が中心となり「一般財団法人榎尾俊雄記念財団」を設立。同財団の管理のもと、世田谷区の成城にある榎尾俊雄の自宅の一部を改装し 2013 年より一般公開。同館には実際に動作する「14-A」や「カシオミニ」、「カシオトロン」「カシオトーン 201」など、榎尾俊雄とその後続が発明した製品を展示している。



採用情報

カシオ計算機（株）
採用ホームページ <http://web.casio.co.jp/recruit/>
[人事部 採用担当]
E-mail : recruiting@casio.co.jp TEL : 03-5334-4841

我が国初のテレビ放送アンテナを手掛け 放送と通信が融合した現在も アンテナづくりに飛翔中の専門企業

▼東京タワー FPU 基地
空中線回転装置群



▲日本テレビ、TBS、フジテレビ、
テレビ朝日共同建設の筑波 FPU 基地局



▼ネパール国営放送
カトマンズラジオ送信所



▲NICT 小金井
太陽電波観測用 9m アンテナ



▼東京スカイツリーの
アンテナ群



通信の発展にいのち燃やして70年



経営理念

- ・顧客本位：良品質の製品を提供し、顧客の信頼を得るお客様は神様である
- ・技術開発：常に前向きに物事をとらえ、新製品の開発に努力する
- ・信賞必罰：社員にとって働きがいのある職場にする努力して成果を上げた人が報われる企業の構築

企業プロフィール

社 名 株式会社加藤電気工業所
代 表 者 代表取締役社長 加藤浩章
本 社 〒114-0022
東京都北区王子本町 1-4-13
TEL：03-3905-7311
FAX：03-3905-5553
U R L <http://www.katoudenki.com>
創 業 昭和23年3月17日
資 本 金 1億5千万円（授權資本6億円）
E - mail eigyo@katoudenki.com



卒業生・創業者

加藤 幸之助

明治39年 秋田県能代町生まれ。
電機学校在学中に通試（現電験）三種・二種に合格。
昼間部電気科本科卒業。
陸軍中野通信所に就職。関東軍技術将校として満州国に赴任。
昭和23年、42歳で加藤電気工業所を起業。



卒業生・二代目・現会長

加藤 康太郎

昭和10年 父親の赴任先の満州国・新京生まれ。
高校・大学ともに電機学園に学ぶ。昭和33年東京電機大学工学部電気通信工学科卒、同年東芝関連会社に入社。
昭和36年加藤電気工業所入社。昭和45年専務、昭和58年社長に就任。持ち前の洞察力と実行力で同社の業績を伸ばし、今日の基盤を築く。
平成26年会長就任。



卒業生・第三代目・現代表取締役社長

加藤 浩章

昭和40年 東京・王子生まれ。
父と同様、高校・大学ともに電機学園に学ぶ。平成元年東京電機大学理工学部建設工学科卒。同年から4年間建築設計会社に勤務後、平成5年に加藤電気工業所に入社、各部署を歴任して、平成26年4月第三代表取締役社長に就任。現在に至る。

沿革

- 昭和 23 年 ● 初代社長加藤幸之助が東京都に個人企業の加藤電気工業所を創業。日本放送協会 (NHK) の指名業者となり、主として空中線及び無線用鉄塔の建設工事として業務開始
- 昭和 28 年 ● 資本金 125 万円の株式会社加藤電気工業所を設立
- 昭和 37 年 ● 埼玉県川口市に川口工場を新設
- 昭和 45 年 ● 埼玉県鳩ヶ谷市に鳩ヶ谷工場を新設
- 昭和 54 年 ● 特定建設業許可取得
- 昭和 57 年 ● 埼玉県白岡町に白岡工場を新設
- 平成 元 年 ● 東京都北区王子本町に本社ビルを新設
- 平成 7 年 ● 群馬県板倉町に板倉工場を新設
- 平成 10 年 ● 創業 50 周年
- 平成 12 年 ● 品質 ISO9001 認証取得 (JQA-QM5746)
- 平成 15 年 ● テレビ放送 50 周年で NHK より感謝状
- 平成 17 年 ● 環境 ISO14001 認証取得 (JQA-EM5002)
- 平成 18 年 ● 板倉工場 国土交通大臣より鉄骨製作工場の認証取得 (TFBH-060003)
- 平成 20 年 ● 創業 60 周年
- 平成 30 年 ● 創業 70 周年



▲ 本社社屋

事業内容

- ▶ テレビ局・ラジオ局・FM 局・無線局
- ▶ パラボラ回転装置・八木アンテナ回転装置
- ▶ 衛星通信・テレビ共聴・CATV・移動体通信
- ▶ 鉄塔・空中線・局舎・通信施設
- ▶ デハイドレーター、各種導波管部品
- ▶ 航路標識用灯浮標・関連施設
- ▶ 船舶用ホイップアンテナ等各種アンテナ



▲ 加藤電気工業所の原点。昭和 28 年 2 月 1 日に、我が国初のテレビジョン放送を開始したときの 6 段同軸開放型アンテナ（当社製）
「千代田区・内幸町の NHK 放送会館屋上」

会社紹介

戦後がいえぬ昭和 24 年秋、日本放送協会 (NHK) 技術研究所からテレビ放送用同軸開放型アンテナ建設の特命を受け、同研究所の技術指導により、研究所構内の 100m 鉄塔上にアンテナを設置した。これこそ、我が国テレビ放送の金字塔となった放送アンテナである。この実績により、(株)加藤電気工業所は NHK の指名業者となり、各種アンテナ及び鉄塔の製作を開始し、飛躍的な発展を遂げることができた。

その後、事業内容に見られるように放送・通信の急速な進歩とともに新分野を次々と開拓し今日に至っている。応用開発分野は多岐に亘るが、オリジナル技術である FPU パラボラアンテナ回転装置は、放送関係のみならず各県警、消防、防災無線用に多数装備されている。

海外工事活動としては、インドネシア、ネパール、中国、タイ、パキスタン、タンザニア等のラジオ放送所のアンテナ及び鉄塔建設工事に多くの実績を重ねている。

学生に求めていること

加藤康太郎はその編著『次世代へのメッセージ東京電機大学人 加藤康太郎』で学生諸君へ「人生を生き抜くための五つの心得」を記している。

- ① 初めは劣等感に苛まれていても構わない。努力すれば必ず結果が出て、やがて大きな自信となる。
- ② 常に何かを学ぶ姿勢を持つことが、成長の助けになる。人生一生勉強。
- ③ 人との出会いを大切に。出会いは人脈となって貴重な財産となる。
- ④ 読書や趣味を持とう！ 読書は考える力を養い、趣味は心を豊かにする。
- ⑤ 遊びも大切。心身のリラックスは能力を最大限に引き出す。

仕事に情熱を持ちたい人！ 自由に発想し、必要な技術を引き出しから選んで自在に組み合わせたり、掛け合わせたりしながら、未来を創造していきませんか。意欲に満ちた若人に期待する。

東京電機大学と当社

(株)加藤電気工業所は、電機学校の昼間部電気科本科を卒業した加藤幸之助が昭和 23 年に創業した「町工場」から始まった。

二代目の長男加藤康太郎も東京電機大学の卒業生で、昭和 33 年に工学部電気通信工学科を卒業後、東芝関連会社に就職、昭和 36 年加藤電気工業所に入社した。昭和 45 年に専務、そして昭和 58 年に社長就任。持ち前の洞察力と実行力で業績を伸ばし、今日の基盤を築いた。現在、当社の会長ではあるが、平成 16 年より東京電機大学理事長の重責を務めている。

三代目の現代表取締役社長の加藤浩章も父康太郎と同様、高校、大学ともに電機学園に学ぶ。平成元年東京電機大学理工学部建設工学科卒。4 年間建築設計会社に勤務後、平成 5 年に加藤電気工業所に入社、各部署を歴任して、平成 26 年に代表取締役社長に就任し現在に至る。なお、当社は平成 30 年に創業 70 周年を迎える。

採用情報

株式会社加藤電気工業所

〒114-0022 東京都北区王子本町 1-4-13

TEL : 03-3905-7311 FAX : 03-3905-5553

担当：管理部 総務課

ひとりひとりが、未来を灯す。 社会を支える“100年企業”へ



 **関電工**

企業プロフィール

社名	株式会社関電工
代表者	取締役社長 森戸義美
本社	東京都港区芝浦4丁目8番33号
URL	http://www.kandenko.co.jp/
設立	昭和19年9月1日
資本金	10,264百万円(平成29年3月末現在)



卒業生・取締役社長

森戸 義美

昭和49年 県立栃木工業高校 電気科 卒業
昭和53年 東京電機大学 工学部
電気工学科 卒業
昭和49年 関電工入社
平成25年 常務執行役員 神奈川支店長
平成26年 取締役常務執行役員
平成27年 取締役副社長
平成28年 取締役社長



卒業生・取締役常務執行役員

長岡 滋

昭和54年 東京電機大学 工学部
電気工学科 卒業
昭和54年 関電工入社
平成28年 常務執行役員 北関東・北信越営業
本部長
平成29年 取締役常務執行役員

沿革

- 昭和 19 年 ● 関東電気工事株式会社を設立
- 昭和 35 年 ● 本社を東京都文京区湯島に移転
- 昭和 36 年 ● 東京証券取引所市場第 2 部に上場
- 昭和 45 年 ● 東京証券取引所市場第 1 部に指定
- 昭和 48 年 ● 総合教育センター（現、人材育成センター）設置
- 昭和 59 年 ● 株式会社関電工に商号変更
- 昭和 63 年 ● 本社を東京都港区芝浦に移転
- 平成 5 年 ● つくば技術研究所（現技術研究所）設置



▲ 本社外観

事業内容

- ▶ 電気設備工事
- ▶ 空調・給排水設備工事
- ▶ 計装設備工事
- ▶ 情報通信工事
- ▶ 電力設備工事



主に電気設備工事を手掛け、インフラ設備を構築し、守ることで社会を支えています。

当社について

当社は昭和 19 年の設立以来、様々な分野で高い技術力を活かして、世界有数の品質といえる首都圏の電力供給を支え、世界的に有名な建物や、地域のランドマークとなる重要な建築物の設備工事を手掛けてきました。

商業施設やオフィスビル、工場、学校（東京電機大学 東京千住キャンパスも当社が施工）等の受変電設備や照明・空調設備を構築し、建物に「いのち」を吹き込む屋内線・環境設備部門。

LAN や IP ネットワーク、光ファイバーケーブル網の整備、携帯電話の基地局やケーブルテレビの放送設備、伝送路の構築により、「情報社会を支える」情報通信設備部門。

また、発電施設や送配電線設備等を構築し、「電力の安定供給」に貢献している電力設備部門。

当社は、この 3 つの部門を通じて、社会生活に欠かせないインフラ設備を構築し、皆さんの暮らしや経済活動を支えています。

また、最近ではロボットや IoT を活用した技術開発にも積極的に取り組んでいます。多種多様なサービスや人材、技術を更に高め、総合設備企業としての存在感を確かなものとしながら、これからも社会の豊かな環境づくりに貢献してまいります。

当社社長から学生のみなさんへ

社長になってから、社員にはこう話しています。

「決して無駄になる経験はなく、大変で面白くないと思う仕事も、その後必ず役に立つ」と。

学校の勉強も同様で、興味があるものだけでなく、いろいろなことに目を向けてみてください。大学での 4 年間は人間形成にとって非常に重要な時期ですから、この時期にいろいろなことを吸収して人間の幅を広げてください。そのきっかけを与えてくれるのは、学校で知り合う人達です。大学時代に知り合った人達とは、一生の付き合いができるでしょう。

そして、人と付き合っていくには「誠実さ」が大切です。特に社会に出てからは、誠実な姿勢で仕事に取り組むことが全ての基本となります。そうした姿勢が信頼を生み、そこに「専門性」がプラスされることで、仕事の幅や人脈が広がり、社会人として活躍することができるのだと思います。

そのような社会人に共通するのは、何事にも前向きにチャレンジする姿勢があるということです。誰しも、経験したことのないことをやるというのは非常に不安ですし、勇気のいることかもしれませんが、私は一歩前に踏み出す勇気があるかないかで、人生は全く違う方向に向かうと思います。是非、一歩前に踏み出し、果敢に挑戦をしてください。

採用情報

各業務において高い信頼性を実現できる人材を育成するため「職場内研修（OJT：On the Job Training）」「集合研修」「自己啓発」の 3 つを教育体制の柱とし、多彩なカリキュラムを設け、教育・研修の充実に力を入れています。

創立100周年を迎えた 老舗の鉄道信号メーカーです



企業プロフィール

社名	株式会社京三製作所
本社	〒230-0031 横浜市鶴見区平安町二丁目29番地の1
URL	http://www.kyosan.co.jp
創立	1917年9月3日
資本金	62億7,030万円
主要事業所	本社・工場 横浜市鶴見区 東京事務所 東京都千代田区 支社・支店 大阪支社・札幌支店・仙台支店・名古屋支店・広島支店・四国支店（高松）・九州支店（福岡）・台湾支店（新北）
従業員数	1,937名（連結）

代表取締役 COO 社長執行役員

戸子台 努

Tokodai Tsutomu



ごあいさつ

株式会社京三製作所は、2017年9月3日に創立100周年を迎えました。

当社は1917年の創立以来、国産初の電気式鉄道信号装置や道路交通信号機、亜酸化銅整流器などの開発・製造を成功させ、「安全と信頼」を基調に信号システムのトップメーカーとして歩み続け、今日では基軸の「鉄道信号システム」・「交通管理システム」・「電力変換システム」に加え「インフォメーションシステム」や「プラットフォーム安全設備」などの分野で事業を展開しております。

これもひとえに、お客様、お取引先、株主や地域社会の皆様をはじめとするステークホルダーの方々のご支援の賜物と、心より御礼を申し上げます。

国産初、世界初を生み出してきたチャレンジ精神“Kyosan DNA”を受け継ぎ、次の100年も先進の技術と確かな品質により「安全性・信頼性」と「人と環境への優しさ」を追求し、国内のみならず世界中の「交通とライフラインの安全・安定確保」と「生産設備の高効率・安定稼働」に貢献してまいります。

これからも、一層のご指導およびご支援を賜りますようお願い申し上げます。

沿革

- 1917 年 9 月 ● 商号を東京電機工業株式会社と称し、東京市神田淡路町に創立
医療用電気機器、電気機械器具等の製作販売を開始
- 1923 年 ● 東京事務所を開設
- 1926 年 ● 商号を株式会社京三製作所と変更
- 1928 年 ● 本社事務所および工場を現所在地に新設移転
合資会社京三商会および日本電気応用株式会社を併合
- 1935 年 ● 大阪出張所（現大阪支社）を開設
- 1942 年 ● 名古屋出張所（現名古屋支店）を開設
- 1947 年 ● 協同工業株式会社（現京三精機株式会社）を設立
- 1949 年 ● 当社株式を東京証券取引所に上場
- 1952 年 ● 九州駐在所（現九州支店）を開設
- 1961 年 ● 当社株式を大阪証券取引市場第 1 部に上場
京三金属工業株式会社を設立
- 1962 年 ● 東京事務所を現在所在地に移設
京三工事株式会社（現京三電設工業株式会社）を設立
- 1964 年 ● 京三興業株式会社を設立
- 1965 年 ● 仙台営業所（現仙台支店）を開設
- 1970 年 ● 広島営業所（現広島支店）を開設
- 1971 年 ● 札幌営業所（現札幌支店）を開設
台湾京三股份有限公司を設立
- 1972 年 ● 四国営業所（現四国支店）を開設
京三エンジニアリングサービス株式会社を設立
- 1983 年 ● 京三システム株式会社を設立
- 1984 年 ● 大阪整流器株式会社に出資し、当社の関係会社とする
- 1993 年 ● 資本金を 62 億 7,030 万円とする
- 1995 年 ● 半導体機器事業部 ISO9001 認証取得
- 1996 年 ● 信号事業部、交通システム事業部（現交通機器事業部）ISO9001 認証取得
- 2002 年 ● ISO14001 認証取得
- 2010 年 ● 台湾支店を開設
- 2013 年 ● Kyosan India Private Limited を開設
- 2015 年 ● Kyosan USA Inc. を設立

事業内容

- ▶ 信号を主とした各種制御システム、電気機器の設計・製造・販売

会社紹介

当社は、創立以来、鉄道輸送・道路交通の安全確保を支える信号制御システムの大手メーカーとして、国内屈指の実績と信頼を築き上げ、社会に貢献してまいりました。

また、半導体応用機器分野では、液晶製造装置・半導体製造装置用電源や各種の電力変換・制御システムも手がける等、その事業領域は広く社会に根ざしています。



▲ 本社外観

企業理念

Create for the Future

未来に向かって 安全・安心 を創造し続けます

● 企業理念

「安全性・信頼性」「地球環境保全」をキーワードに
先進の技術と高い品質で「社会の発展と快適性向上」に貢献する

● 経営目的

- ◆ 京三グループの永続的成長
- ◆ 共に歩む人々の幸せ
- ◆ ステークホルダーへの適切なリターン

● 企業ビジョン

めざす企業像「信頼度ナンバーワン KYOSAN」

- ◆ 安全と安心を提供するリーディングカンパニー
- ◆ すべての国の文化を尊重するグローバル企業
- ◆ 充実したコーポレートガバナンス

《行動規範》

- ・ 誠実さと高い倫理観
- ・ 強い責任感と当事者意識
- ・ ダイバーシティ

《行動指針》

- ・ スピード
- ・ チャレンジ
- ・ イノベーション

OB・OG 68名活躍中！

》採用情報

採用に関するお問い合わせは下記へお願いいたします。
お問い合わせ先：株式会社京三製作所 人事部 採用担当
TEL：045-503-8101

学校法人東京電機大学の**教育・研究・ 社会貢献**の充実、発展の支援及び**学生・ 生徒のサービス向上**が主な使命です。



▲ 埼玉鳩山キャンパス売店に隣接する
賑わいのある学生ラウンジ

【施工事例など】



1. 東京千住キャンパス
千住東グラウンド



2. 埼玉鳩山キャンパス
4号館 HATO CAFÉ
学生・先生方が設計された施設
で、喫茶を運営しております。



3. 埼玉鳩山キャンパス
総合グラウンド



4. キャンパス内売店
(コンビニ)
東京千住キャンパス5号館
3階(写真)、埼玉鳩山キャン
パス9号館2階で営業。
学生・教職員の皆様の「憩い
の場」としてもご利用頂ける
店舗(厚生施設)を目指して
おります。

沿革

- 昭和 52 年 ● 錦電サービス株式会社を設立
鳩山事業所設置
(埼玉鳩山キャンパス内)
- 平成 2 年 ● 千葉事業所設置
(千葉ニュータウンキャンパス内)
- 平成 4 年 ● 小金井事業所設置
(東京小金井キャンパス内)
- 平成 10 年 ● 特定建設業許可
- 平成 28 年 ● 一級建築士事務所登録
- 平成 29 年 ● 設立 40 周年を迎える



事業内容

- ▶ 建物、建物附属施設・設備の維持管理
- ▶ 土地、建物の警備、清掃
- ▶ 建築工事、土木工事の設計、監理、
施工並びに電気工事、給排水衛生設備工事、
空調設備工事の設計
- ▶ 不動産の賃貸
- ▶ 食堂、喫茶、ケータリングの経営
- ▶ 書籍、教材、文房具の販売
- ▶ 自家用バス等の運行の請負
- ▶ 損害保険代理店
- ▶ 簡易郵便局経営
- ▶ 一般労働者派遣事業
- ▶ 一級建築士事務所



▲ 埼玉鳩山キャンパス内売店

会社紹介

昭和 52 年 4 月学校法人東京電機大学が埼玉県鳩山町に理工学部(4 学科)を設置した際にキャンパス維持管理・サービス業務を担当するために弊社は設立されました。爾来、学校法人東京電機大学の教育・研究・社会貢献の充実、発展の支援及び学生・生徒のサービス向上が主な使命であります。

具体的な業務としては、学校法人東京電機大学キャンパス内の各種工事、ビルメンテナンス・食堂・売店等の事業を行い、さらに他大学様(3 大学)、病院様、市役所様においてコンビニ(売店)の事業展開を図るなどの新たな取り組みも行い、東京電機大学の関連会社として一層努力してまいります。なお、卒業生が数名在職しており、会社の発展に貢献しております。

学生に求めたいこと

学生時代には、新しいことにチャレンジし、成果が現れるまで打ち込むことが必要と考えます。その過程においては、困難や失敗もありますが、原因を究明し、解決方法を見つけ、実践することを繰り返すことは、社会人になった時に、大きく役立つこととなります。

成果はすぐには見い出すことは出来ないかもしれませんが、常に前を向いて一歩踏み出すことが大切なことです。

錦電サービス株式会社

企業プロフィール

社 名	錦電サービス株式会社
代 表 者	代表取締役社長 河野 朗
本 社	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-11-2 インペリアルお茶の水 231 TEL : 03-3291-3376 FAX : 03-3291-3376
U R L	http://www.kinden-service.co.jp
設 立	昭和 52 年 3 月 1 日
資 本 金	2,000 万円
従 業 員 数	170 名 (平成 29 年 4 月 1 日現在)

≫ 連絡先

本 社 〒101-0052
東京都千代田区神田小川町 3-11-2
インペリアルお茶の水 231
TEL : 03-3291-3376 FAX : 03-3291-3376

鳩山事業所 〒350-0311
埼玉県比企郡鳩山町石坂 486-81
東京電機大学埼玉鳩山キャンパス内
TEL : 049-296-2962 FAX : 049-296-5761

「お客様が喜ぶ」ために従業員の 待遇改善に挑戦した創業者 「がんばらない経営」で 従業員第一主義を貫いた相談役



企業プロフィール

社名	株式会社ケーズホールディングス
代表者	代表取締役社長 平本 忠
本社	〒310-8282 茨城県水戸市桜川 1-1-1
URL	http://www.ksdenki.com/
創業	昭和 22 年 3 月
資本金	129 億 87 百万円(平成 29 年 3 月末現在)
売上高	6,581 億 50 百万円(平成 29 年 3 月期)
従業員数	14,041 名(うち準社員 7,427 名) (平成 29 年 3 月末現在)
店舗数	485 店舗(直営:481 店舗/FC:4 店舗) (平成 29 年 3 月末現在)



創業者・(故人)
加藤 馨
Kato Kaoru

大正 6 年 神奈川県生まれ
陸軍航空士官学校出身



卒業生・現 相談役
加藤 修一
Kato Shuichi

昭和 21 年 茨城県生まれ
昭和 44 年 東京電機大学電気通信工学科卒業
有限会社加藤電機商会(現 株式会社
ケーズホールディングス) 入社
昭和 57 年 代表取締役社長
平成 23 年 代表取締役会長
平成 28 年 相談役(現在に至る)



代表取締役社長
平本 忠
Hiramoto Tadashi

昭和 33 年 茨城県生まれ
昭和 57 年 早稲田大学社会科学部卒
昭和 58 年 当社入社
平成 29 年 代表取締役社長

沿革

- 昭和 22 年 ● 創業者加藤馨が、茨城県水戸市元台町に加藤電機商会を設立
- 昭和 30 年 ● 有限会社加藤電機商会設立
- 昭和 46 年 ● 有限会社カトーデンキに商号変更
- 昭和 48 年 ● 株式会社カトーデンキに改組
- 昭和 55 年 ● 資本金 2,250 万円でカトーデンキ販売株式会社設立
- 昭和 57 年 ● 社長加藤馨が会長に就任、専務加藤修一が社長に就任
- 昭和 60 年 ● 株式会社カトーデンキを合併・資本金 1 億円となる
- 昭和 63 年 ● 日本証券業協会東京地区協会に株式会社店頭登録
- 平成 9 年 ● 株式会社ケーズデンキに商号変更
- 平成 13 年 ● 東京証券取引所市場第二部に上場
- 平成 14 年 ● 東京証券取引所市場第一部に昇格
- 平成 19 年 ● 株式会社ケーズホールディングスに商号変更
- 平成 23 年 ● 社長加藤修一が会長に就任
専務遠藤裕之が社長に就任
- 平成 28 年 ● 会長加藤修一が相談役に就任
- 平成 29 年 ● 社長遠藤裕之が会長に就任
専務平本忠が社長に就任



▲平成 29 年 7 月に「プラチナくるみん」と「えるぼし（第 3 段階“最高ランク”）」ダブル認定

事業内容

- ▶ 家庭電化製品並びに関連商品販売
および付帯工事・修理



▲グループ理念

本当の意味での
「お客様第一」のためには
1. 従業員 2. お取引先
3. お客様 4. 株主
の順番で大切にすることが重要

起業家としての創業者

創業者の加藤馨は、神奈川県相模原の農家の三男として誕生。高等小学校卒業直前に父親が急死、進学を断念、19 歳で生活のため陸軍入隊。元来の勤勉さから陸軍航空士官学校に進み、戦時中は、陸軍航空通信学校教官を務めました。終戦後の公職追放で無職となり、就職難が続いたことから「自分で商売を始めるしかない」と考えるようになりました。そして、屋根と柱のみの粗末な家を必死の思いで借り受け「ラジオ屋」を創業しました。これがケーズデンキの始まりです。

その後、業績は順調に伸びていきましたが、昭和 40 年頃、「お客様に喜んでもらう」ためには、まず「従業員に喜んでもらう」「会社に居ながら財産が築ける」ようにしなければならないという想いに到りました。そこで、当時としては画期的な制度、今で言うストックオプションを導入し、退職時には一人 5 千万円、業績次第ではさらに高額な財産が築ける仕組みを考え出したのです。

歴史の継承と未来への展望

今後も家電販売業界は、価格競争、サービス競争など、厳しい競争状態が続きます。その中で、当社は競争に負けない会社であると同時に、省エネなど、企業の社会的責任もきちんと果たす会社を目指しています。

当社は平成 29 年で創業 70 周年を迎える事ができました。

今後も末永く企業を存続させていくためには、目先のことで無理をせず、正しいことを行う「がんばらない経営」が必要であると考えます。

また、会社経営は「終わりのない駅伝競走」です。たとえ歩みが遅くても確実に次の走者（社長）にタスキを渡し続けることが最も重要なことです。当社では従業員にノルマを課すようなことはしていません。命令されて動くというのでは、いつか必ずどこかで破たんします。自ら動く人間になり、たとえ遅くても自分のペースでゆとりを持って成長し続けることが大切です。

後輩に贈る言葉

これからのデジタル時代は、情報や知識を使いこなす力が評価されます。アナログの時代は記憶力に価値がありました。学生と社会人との違いでいえば、社会人は効率が重要視されます。たとえば、学校では同じ試験時間内、同じ点数なら 30 分で解いても 60 分で解いても評価は同じです。しかし、社会に入ると、同じ点数を 30 分で解いた人は、60 分で解いた人の 2 倍の評価を受けます。また、60 分かけて 100 点満点を取った人よりも、30 分で 80 点取った人のほうが評価は上になるのです。つまり、情報や知識を使いこなし、どれだけ効率よく業務をこなせるかで評価される時代になったのです。

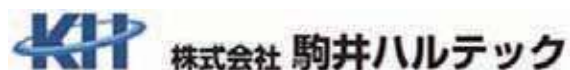
採用情報

ケーズデンキでは、インターンシップをマイナビ・リクナビより受付けます。

また、下記 URL よりケーズデンキの採用情報もご確認ください。
http://www.ksdenki.co.jp/kshd/pages/adoption_new_personnel.aspx



夢を架け 空間を創る



卒業生・現代表取締役社長

田中 進

昭和 52 年 3 月 東京電機大学工学部卒業
同年 4 月 当社入社
平成 19 年 6 月 取締役就任
平成 24 年 4 月 代表取締役社長就任

企業プロフィール

社名	株式会社駒井ハルテック
代表者	代表取締役社長 田中 進
本社	〒110-8547 東京都台東区上野 1-19-10 TEL : 03-3833-5101 FAX : 03-3833-6788
URL	http://www.komaihaltec.co.jp/
創業	明治 16 年
資本金	66 億 1,900 万円

東京電機大学と当社

当社は明治 16 年、大阪で創業しました。国内地域別の工業生産額は戦前まで大阪がトップでした。ところが戦後にかけて東京が政治だけでなく経済・産業のけん引力を持つようになりました。そこで昭和 27 年に東京都港区に事務所を開設し、「東京進出」を果たしたわけです。貴校もほぼ同じくして東京電機大学を開設されておられます。また、当社には昭和 52 年に卒業した代表取締役の田中進をはじめとして 9 名の OB・OG が入社されました。OB・OG の皆さんは技術、設計など各方面で活躍されています。

沿革

- 明治 16 年 ● 創業
- 昭和 18 年 ● 株式会社駒井鐵工所を設立
- 昭和 36 年 ● 大阪証券取引所に、株式を上場
- 昭和 55 年 ● 東京支社を本社に昇格
- 昭和 59 年 ● 東京証券取引所に、株式を上場
- 平成 9 年 ● ISO9001 認証登録
- 平成 22 年 ● ISO14001 認証登録
- 平成 22 年 ● 駒井鐵工株式会社と株式会社ハルテックの合併により設立
- 平成 24 年 ● 大阪市西区立売堀に、本店を移転



▲ 東京本社

事業内容

- ▶ 橋梁、鉄骨、その他鋼構造物の設計、製作、建設、診断、補修
- ▶ 土木・建築工事の設計・請負
- ▶ 風力発電機による売電事業

▲ 虎ノ門ヒルズ森タワー
写真提供：森ビル(株)

写真提供：東京都港湾局

会社紹介

私たちは『橋梁』『鉄骨』『環境』を柱に総合鋼構造エンジニアリング企業として高品質な製品を供給しています。

橋梁事業

国土交通省や各日本高速道路株式会社を中心に、日本全国の橋梁工事に携わっています。設計、製造、施工まで、すべての工程を担うことができるのは、東京湾アクアラインや明石海峡大橋をはじめとする実績と技術力が高く評価されているからこそです。近年は保守・メンテナンス事業にも取り組んでおります。

鉄骨事業

六本木ヒルズ森タワー、横浜ランドマークタワー、虎ノ門ヒルズ森タワーなどの超高層オフィスビルの建設に貢献。東京のシンボルとなっている東京スカイツリー®も当社の工場で作製されました。富津・和歌山工場は国内に10数社しかない国土交通省のSグレード認定を取得しております。

環境事業

山間部や離島など風雨や落雷の多い条件下でも安定的に発電できる風車『KWT300』を自社開発。三重大学のほか、ブータン、ロシア、メキシコの風力技術センターでも稼働しています。

学生に求めたいこと

当社の成長の鍵は、これまでの実績に甘んじることなく、より質の高い製品と技術力を提供することです。だからこそ、皆さんには既成概念に捉われない創造力と行動力を期待しています。10年後、20年後、当社の中心で活躍している自身の姿をイメージして飛び込んでください。

電大 OB・OG 活躍中！

卒業生 増山 和憲さんからのコメント

私の会社は一言で言えば「鉄骨造のプロフェッショナルの集まる会社」です。誰もが名前を聞いたことのある大企業から職人さんまで幅広い方々と関係する会社です。入社してから日が浅く、先輩のいるレベルは遥か彼方だと感じます。楽しく仕事ができる環境でプロの仲間入りを目標に仕事しています。

>> 採用情報

株式会社 駒井ハルテック
 〒110-8547 東京都台東区上野 1-19-10
 TEL：03-3833-5101 FAX：03-3833-6788
 担当：総務部 人事課
 E-mail：saiyou@komaihaltec.co.jp

“お客様の笑顔・安心のために” その想いで**不動産・介護・医療**を通して より豊かな暮らしに向け社会を支え続けます



卒業生・創業者

高橋 誠一

Takahashi Seiichi

昭和44年 東京電機大学工学部第一部
電気工学科卒業
昭和44年 高橋米穀を継ぐ
昭和49年 三光不動産株式会社設立
代表取締役社長

企業プロフィール

社名	三光ソフランホールディングス株式会社
代表者	代表取締役社長 高橋誠一
本社	〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル 13 階 TEL : 03-6895-7735 FAX : 03-6895-8835
URL	http://www.sanko-soflan-hd.com/
創業	1974 年 9 月 11 日
資本金	1 億円



▲ 三光ソフラグループの企業理念

沿革

- 1974 年 ● 三光不動産株式会社設立、不動産業開始
- 1990 年 ● 株式会社アップル設立、賃貸管理業開始
- 1999 年 ● メディカル・ケア・サービス株式会社設立、介護事業開始
- 2008 年 ● メディカルホットライン株式会社設立、医療事業開始
- 2012 年 ● 三光ソフランホールディングス本社、東京オフィスへ移転
- 2017 年 ● 創業 43 周年を迎え、事業会社 18 社まで拡大



▲ 本社総合受付

事業内容

▶ 不動産事業

- ・資産運用、相続対策コンサルティング
- ・不動産の売買・仲介
- ・建築事業（設計・施工）
- ・賃貸不動産の仲介、総合管理
- ・サブリース
- ・コインパーク
- ・流通店舗事業
- ・海外事業
- ・ホテル事業

▶ 介護事業

- ・介護施設の企画、開発、運営管理
- ・グループホーム、介護付有料老人ホーム
- ・在宅支援事業
- ・海外事業

▶ 医療コンサル事業

- ・医療クリニックの運営
- ・在宅診療、訪問診療
- ・医療関係人材紹介

▶ その他事業

- ・保育園事業
- ・カフェ事業

会社紹介

三光ソフランホールディングスは、不動産、介護、医療を主力事業として国内外に展開する従業員 7,500 人を超える企業グループです。

不動産事業では、全国 No.1 の賃貸ネットワークを持つアパマンシヨップの中でも店舗展開数・売上高 No.1 を誇る株式会社アップルを始め、資産・相続コンサルティングから、売買、仲介、賃貸管理など不動産のトータルソリューションを提供しています。介護事業では、全国で 280 か所を超えるグループホームを運営し、運営居室数 No.1 となりました。また高齢化社会の深刻化が見込まれる中国において、北京大学と提携し介護施設のコンサルティングや、中国全土にわたる施設運営を見通した事業展開を進めています。医療事業においては介護事業と密接に連携した形で在宅医療サービスの拡充、強化に努めています。

お客様に「安心」を提供するために、常に社会の動きや一歩先を見据え、新しい価値を創出すべく続々と新規事業を進め、今では 18 社からなる企業グループとなりました。近年では、女性の社会進出を後押しすべく保育園事業へ参入し、今ではさいたま市北区で 2 年連続人気 No.1 の保育園となっています。また今後は世界を見据え、経済成長著しいアジア諸国への事業展開、インバウンド事業を推し進め、更なる事業拡大を目指して参ります。

学生に求めたいこと

私たちが学生に求めているのは「向上心を持っている人」です。自分で考える「想像力」や、自分でやろうという「主体性」が重要だと考えています。これからの時代はどういう方向に向かうのだろうと考えたり、自分でやりたいという想いがある人を私たち会社は応援します。自分でやりたいと思う事業があるなら、この会社で経営を学んでからでも遅くはありません。チャンスはいくらでもあります。

三光ソフラングループは、不動産・介護・医療を軸にあらゆる新規事業を展開しています。時代のニーズに応える各分野で若い世代が活躍しているので、これからを担う皆さんにも是非私たちの会社で自分の才能を開花させて欲しいと思っています。

三光ソフラングループの今後の展望

当社の企業理念として「人々の夢と希望を創造する」とあるように、街に人が生まれ育ち、そして最期の時まで、その人生を全てサポートできる会社を目指しています。こどもたちの笑顔からシニアの方々の安らぎまで、住まいや介護を通じて人生に安心のインフラを提供し生活を支える存在であり続けることが我々の使命です。

その実現のために、私たちは失敗を恐れず常にベンチャー精神をもって挑戦し続けます。

≫ 採用情報

▼三光ソフラングループ 新卒採用担当
グループ採用を行っております。

お気軽にご連絡くださいませ。

TEL : 03-6895-7735 FAX : 03-6895-8835

新技術を新たな柱に 挑戦し続ける創業50年の システムインテグレーター



企業プロフィール

社名	システムズ・デザイン株式会社
代表者	代表取締役社長 隈元 裕
本社	〒168-0063 東京都杉並区和泉 1-22-19 朝日生命代田橋ビル 6F TEL : 03-5300-7800 FAX : 03-5300-7841
URL	http://www.sdcj.co.jp
創業	昭和 42 年 3 月 24 日
資本金	333,906 千円 (平成 29 年 3 月 31 日現在)
事業所	東京 (本社)、大阪、山梨、八王子、成増、横浜、天満橋
グループ会社	株式会社アイデス、シェアードシステム株式会社、株式会社アイカム
従業員数	1,366 人 (臨時を含むグループ全体 平成 29 年 3 月 31 日現在)



卒業生・代表取締役社長

隈元 裕

Kumamoto Hiroshi

平成 3 年 東京電機大学 理工学部
経営工学科 卒業
平成 5 年 東京電機大学 大学院 理工学研究科
システム工学専攻 修士課程 修了
平成 25 年 代表取締役社長就任 (現任)

|社長からのメッセージ

システムズ・デザイン株式会社は、平成 29 年 3 月に創業 50 周年を迎え、ジャスダックに上場する独立系 IT 企業です。当社は新しい技術やサービス、マーケットでの事業展開に制約や縛りが無く、チャレンジしたい人には自由度が高く、とても魅力的な企業です。

「カスタマー・ファースト」の経営理念の基、顧客の成長や技術の進化と共に発展し続けている企業であり、堅実な経営を実践しています。これも盤石な財務基盤、信頼を得ている顧客基盤があるからこそです。

東京電機大学からは、ここ 6 年連続で入社しており、現在は 10 名以上の OB・OG が活躍しています。顧客の抱える経営課題を分析し、最善の情報システムを提供するシステムインテグレーションサービスにより企業、官公庁の課題を解決しています。活躍のフィールドは、コンサルティング・企画から設計・開発・運用・保守までと幅広いです。ぜひ、sdc で一緒に顧客へ新しい技術やサービスを提供していきましょう！

沿革

- 昭和 42 年 3 月 ● 会社設立 東京都荒川区町屋
- 昭和 47 年 8 月 ● 千代田電子計算株式会社を設立
- 昭和 48 年 9 月 ● 大阪営業所を開設
- 平成 12 年 10 月 ● システムズ・デザイン株式会社、
千代田電子計算株式会社、山梨
千代田計算株式会社合併
商号をシステムズ・デザイン株式
会社とする
大阪営業所を大阪支社へ改組
- 平成 17 年 3 月 ● ジャスダック証券取引所に上場
- 平成 18 年 4 月 ● 株式会社アイデスの株式取得
(子会社化)
- 平成 26 年 6 月 ● 神奈川県横浜市西区に横浜事業所
を開設
- 平成 26 年 8 月 ● 東京都板橋区に成増事業所を開設
- 平成 27 年 7 月 ● シェアードシステム株式会社の
株式取得 (子会社化)
- 平成 27 年 11 月 ● 大阪市中央区に天満橋事業所を
開設
- 平成 28 年 5 月 ● 株式会社アイカムの株式取得
(子会社化)



▲ 東京本社

事業内容

- ▶ システム開発事業
コンサルティング、企画、開発から保守・運用までの
SI（システムインテグレーション）を提供
 - ・ 公共向けシステム
 - ・ 自動車メーカー向け生産管理、パーツ管理、販売店
支援システム
 - ・ 物流業界向け基幹システム
 - ・ 大学向け
教育研究用システム基盤設計（授業用 PC、サーバ環境）
教職員用システム基盤設計（履修システム管理）
 - ・ 医療系システム（電子カルテなど）の提案・導入 など
- ▶ アウトソーシング事業
顧客の情報化、業務効率化を実現するための BPO
（ビジネスプロセスアウトソーシング）サービスを提供
 - ・ コールセンター
 - ・ データエントリー
 - ・ アッセンブリー
 - ・ 大学図書館運営業務 など

会社紹介

システムズ・デザインは創業以来 50 余年、IT を通じてお客様の情報化、業務効率化を支えてきました。

SI（システムインテグレーション）と BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）を主軸のサービスとし、お客様のニーズに応じた柔軟性の高い IT ソリューションを提供することで、様々な業種・業界の企業や公共機関から高い信頼を得ています。

近年、産業界では AI・IoT などの技術革新が従来にないインパクトで進行しています。IT を事業のコアとする当社では、こうした先端テクノロジーを活用することで新たな価値を創造し、より高いレベルでお客様のビジネスに貢献、次の時代にも広く社会から必要とされる企業を目指します。

電大 OB・OG 活躍中！

新卒で sdc に入社して 11 年目になります。入社当初は先輩方のもとでプロジェクトメンバーとして経験を積み、3 年目からはチームの中心としてプロジェクトを牽引するポジションへとシフトしていきました。

コンシューマ向けの情報サイトや販売店向け業務支援システムの構築に参画した後、現在は、当社グループ会社のコールセンターに AI を適用するプロジェクトのリーダーを任されています。AI 関連技術である自然言語処理と音声認識を活用し、お客様からの質問を解析することで最適な回答候補をオペレータに提示するシステムの開発です。実証実験を繰り返し、回答の精度を高めることによって、コールセンターにおけるサービスレベルの向上や業務の効率化を目指しています。

当社では、こうした先端技術への取り組みを各部門で行っており、情報共有のための交流会なども開催されています。

ぜひ一緒に様々な技術に取り組んでいきましょう！

（東京電機大学 理工学部 情報システム工学科 平成 19 年卒業 吉野 裕）

学生に求めていること

予想以上のスピードで IT が進み、急速に世の中に浸透している現在、IT 業界が担う役割は益々広がっており、より高いステージを目指して技術を磨いていく必要があります。

そんな IT 業界において、東京電機大学で学んだ知識や経験を活かし、日本を代表する企業の課題を解決しませんか。その活躍の場が当社にはあります。

AI や IoT など新技術研究のサークル活動を実施しており、お互いに技術を高め、新たなことに挑戦できます。また、OSS やセキュリティ、ビッグデータなどの分野も強化しています。

先輩 OB・OG が多く活躍しており、電大生を積極的に採用しています。皆様のご応募お待ちしております。

採用情報

応募については下記までお問い合わせください。
システムズ・デザイン株式会社
採用メールアドレス：s_recruit@sdcj.co.jp
問い合わせ先：永田、門脇

豊かな暮らしを支え続ける、
確かな技術。
次の**100年**に向け、
技術とともに歩む。



企業プロフィール

社名	東光電気工事株式会社
代表者	取締役社長 青木宏明
本社	〒101-8350 東京都千代田区西神田一丁目4番5号 TEL：03-3292-2111 FAX：03-3295-5760
URL	http://www.tokodenko.co.jp
創業	大正12年11月20日
資本金	11億3,400万円



これまで、これからも…

私どもは大正12年、首都圏に壊滅的な打撃をもたらした関東大震災直後に、電灯復旧の一翼を担うべく「東光商会」として創業いたしました。「東光」は遍く世間を照らす太陽を意味しております。以来90有余年、「優れた技術に裏打ちされた良心的な電気工事」を社是として、電気工事一筋に邁進してまいりました。来たる100周年に向け、新しい時代の要請にも応え、広く社会に貢献し続ける存在でありたいと願っております。当社の原点である「良心的な電気工事」の経験と実績を大切に承継しつつ、新たな挑戦を重ねて参ります。

沿革

- 大正 12 年 ● 合資会社東光商会設立
- 昭和 22 年 ● 東光電気工事株式会社設立
- 昭和 37 年 ● 中四幹線・海峡横断架線施工
- 昭和 63 年 ● タイ東光エンジニアリング設立
- 平成 24 年 ● 株式会社サン・エナジー石巻、
株式会社サン・エナジー洋野設立
- 平成 25 年 ● 創業 90 周年を迎える
- 平成 29 年 ● ベトナム東光エンジニアリング設立



▲ 市川研修センター



▲ 社員寮



▲ 東光電気工事を支える現場力

事業内容

- ▶ 内線事業 建築電気設備、消防施設設備、電気通信設備などの設計・施工
- ▶ 外線事業 送電線、電車線、発・変電所、通信線、道路照明工事などの設計・施工
- ▶ 再生可能エネルギー 風力・太陽光発電設備の企画・提案・設計・施工
- ▶ 環境設備 空調・衛生設備工事の劣化診断・設計・施工
- ▶ 海外事業 タイ、ミャンマー、ベトナムにおいて電気設備工事を中心としたエンジニアリング事業を展開
- ▶ 事業開発部門 農業生産・不動産・高齢者介護事業



▲ オフィスビルの設計から施工までを担っております。

会社紹介

当社は、1923（大正 12）年に創業以来、電気設備の総合エンジニアリング企業として、常に日本を代表するようなビッグプロジェクトに参画しております。建築電気設備、情報通信設備、送電線、電車線工事などを通じて、社会に大きく貢献しています。どの資本系列にも属さない「独立系」である強みを活かし、事業領域に制約はありません。事業フィールドは主に「内線（屋内線）」「外線（送電線・電車線）」「再生可能エネルギー（風力・太陽光）」「空調衛生」と多岐に渡ります。さらに海外事業、農業部門など、電気工事を中心として新しい事業領域にも積極的に展開しています。

学生に求めたいこと

私たちは、電気工事を通して社会を支える仕事をしています。ひとつのプロジェクトに携わる人が数千人を超える大現場で仕事することもあります。様々な業種、組織、職種の方と一緒に働く場では、個人の才能がどれだけ高くても、決して一人きりで完結できる仕事はありません。それゆえ、工事完成時の達成感は言葉で表せないものがあります。

当社が学生に求めたいことは、「自分で考えて行動しよう」ということです。様々な方と一緒に仕事をする時に、会社の代表として対等に意見ができなければ良い仕事できません。自分でものを考えて、それを実際に行動にうつしてみる。どんな小さなことでも構いません。その経験が、今後必ず役立ちます。

常に考え、行動し、そして発信していく力もぜひ学生時代に磨いて頂き、一緒にデンセツをつくりましょう！

電大 OB・OG 活躍中！

当社では電大 OB・OG が多く在籍しています。校友会公認組織「東光電気工事電機会」を設け、業務上だけでなく社外でも活発に交流を行っています。役員から、現場で働く女性社員まで、社内の幅広い分野で活躍中です。



▲ 校友会公認組織 東光電気工事電機会

採用情報

東光電気工事株式会社
〒101-8350 東京都千代田区西神田一丁目4番5号
TEL：03-3518-2315（人事部直通）
E-mail：jinji@tokodenko.co.jp
担当：人事部人事第一課 採用担当

豊かな社会づくりを支える高い技術力 個性と自主性の尊重 時代がもたらす新たな使命への挑戦



企業プロフィール

社名 東洋電機株式会社
代表者 代表取締役社長 松尾昇光
本社 〒486-8585
愛知県春日井市味美町
2丁目156番地
TEL: 0568-31-4191
FAX: 0568-31-8096
URL <http://www.toyo-elec.co.jp/>
設立 昭和22年7月
資本金 10億3,708万円



卒業生・現会長

松尾 隆徳

Matsuo Takanori

昭和40年 東京電機大学 工学部第一部
電気工学科卒業
同年 株式会社昌運工作所入社
昭和42年 株式会社東洋電機工作所入社（現東洋電
機株式会社）
昭和50年 取締役就任
昭和52年 常務取締役就任
昭和57年 取締役副社長就任
昭和58年 東洋電機株式会社 代表取締役社長就任
平成18年 東洋電機株式会社 代表取締役会長就任

〈おもな外部の役職〉

平成19年 公益社団法人小牧法人会 会長
平成22年 春日井商工会議所 会頭
平成27年 一般社団法人東京電機大学校友会 理事長
平成28年 学校法人東京電機大学 理事

沿革

- 昭和 22 年 ● 兵庫県尼崎市に株式会社東洋電機工作所を設立
- 昭和 35 年 ● 愛知県春日井市に春日井工場を建設・移転
- 昭和 45 年 ● 商号を東洋電機株式会社に変更
- 平成 元年 ● 愛知県春日井市の工業団地に神屋工場を建設
- 平成 9 年 ● 名古屋証券取引所市場第二部に上場
- 平成 16 年 ● 中華人民共和国南京市に子会社「南京華洋電気有限公司」を設立
- 平成 18 年 ● 「愛知ブランド企業」認定を取得
- 平成 25 年 ● タイ王国バンコク都に Thai Toyo Electric Co.,Ltd. を設立
- 平成 26 年 ● 新春日井工場竣工



▲ 神屋工場

事業内容

- ▶ マイクロコンピュータ応用電気機器およびソフトウェアの開発、製造、販売
- ▶ センサ、測定器、情報制御機器等の電子応用機器の開発、製造、販売
- ▶ 受配電用電設機器の製造、修理、販売
- ▶ 各種機械器具の電源装置、自動制御装置の設計、製造、販売



▲「MAGIC BEAM」超高速光空間伝送装置
空間で超高速ワイヤレス伝送を実現。ハイビジョン映像なども伝送可能。

高い技術力で、豊かな社会づくりを支える

東洋電機は昭和 22 年の設立以来、機器事業、エンジニアリング事業、変圧器事業の 3 つの事業を基幹とした産業用電気制御総合メーカーとして展開してきました。

機器事業の主力製品でもあるエレベータ関連製品は、新しく設置されるエレベータの約 7 割に使われています。エンジニアリング事業では物流・搬送制御システムなど、お客様のご要望に沿った各種制御システムの開発を行っています。変圧器事業では耐雷機能や小型化、省エネ対応などの付加機能を加えることで、あらゆる産業の原動力である電源供給を支えています。これらの製品は一般消費者の目に触れる機会は少ないですが、工場の中核部分を担う重要な製品です。

そして今、何より力を入れているのは、海外への進出です。現在はグループの海外企業 2 社が事業展開をしています。国内だけでなく海外にも求められる高品質な製品、そして新たなニーズに向け成長を続けています。

人とのつながりを大切にする企業

東洋電機では人と人との関わりを大切にしています。距離が近い分、自分の意見を積極的に発信することができます。社長と社員の距離がとても近いことも、当社の特徴の一つです。社長は社員の名前を覚えており、社員に積極的に声を掛けることで、コミュニケーションを図っています。上との繋がりが日々感じられるため、風通しの良いアットホームな職場です。

また、当社は社是にある「働き甲斐ある職場」をつくるために、若手と女性の活用、ワークライフバランスを意識した働き方を推進しています。社員一人ひとりが成長し、自立してこそ、企業は更なる飛躍を達成できると考えています。企業を創るのは「人」という想いのもと、社員が働きやすい環境づくりを進めています。

会長 松尾隆徳からのメッセージ

- ① 東京電機大学建学の精神「技術で社会に貢献する人材の育成」に応えられるよう努力すること。
- ② そのためには、自ら、進んで、喜んで行動し、真摯な態度で新しいことに挑戦すること。(自主性、主体性、漸進性、自己責任)
- ③ 初代学長丹羽保次郎先生の言葉「技術は人なり」を心に刻み励むこと。「立派な技術には、立派な人を要するのです。よき技術者は、人としても立派でなければならないのです。ですから技術者になる前に『人』にならなければなりません」
- ④ 社会に出てからは、朗らかで、周りや仲良く、喜んで働き、絶えず素直な、とらわれのない、混じりけのない心を持ち続け、感謝の気持ちで何事にも取り組むことが大切です。

採用情報

採用 HP : http://www.toyo-elec.co.jp/recruit_sp/
東洋電機株式会社
〒486-8585 愛知県春日井市味美町 2 丁目 156 番地
TEL : 0568-31-4191 FAX : 0568-31-8096
人事担当：磯村・松原

環境に、社会に、文化に、 責任ある企業として 調和のとれた発展を目指す



技術を、人と地球のために



東洋熱工業株式会社

企業プロフィール

社名	東洋熱工業株式会社
代表者	代表取締役社長執行役員 芝 一治
本社	東京都中央区京橋 2-5-12
URL	http://www.tonets.co.jp
創業	昭和 12 年 8 月 25 日
資本金	10 億 1,000 万円
従業員	786 名

サービス・製品

当社の施工した東京千住キャンパスには様々な最新の省エネ技術が導入されています。その一つに当社の開発した空調の熱源を高効率に運用する技術として冷温熱源トータル最適制御システム（E-SCAT）が導入されています。近年の設備機器はメーカーによる省エネ化の推進により、単体機器での高効率化は進歩してきていますが、得られる効率は限界にきています。そのさらに先をいく省エネ技術として、負荷変動や外気状態の変化に応じてシステム全体で最も省エネな運転ポイントを求めて制御していく技術（E-SCAT）を当社は他社に先駆けて開発しています。

多種多様な熱源システムに対応できることや導入実績で省エネルギーを達成できる点が当社の強みです。

この他にも夜間の電力を熱に変換して蓄える蓄熱システムとして、温度の密度差により生じる温度成層を利用した高効率な連結式縦型蓄熱槽を新たに開発導入し、環境負荷の低減を図っています。さらに教室の空調や照明を、予約された授業時間や教室内に滞在する人数と連動して、こまめに制御する自動制御技術なども導入しています。

沿革

- 昭和 12 年 ● 東洋熱工業会社設立
- 昭和 52 年 ● 海外工事に進出
- 昭和 61 年 ● 技術研究所設立
- 平成 8 年 ● 業界に先駆け ISO9001 取得
- 平成 11 年 ● 業界に先駆け ISO14001 取得
- 平成 25 年 ● 新社屋を建設



▲ 東熱ビル

事業内容

- ▶ 東熱は昭和12年創業の空気調和設備、給排水衛生設備（合わせて空調衛生設備）の設計・施工・アフターメンテナンスを行う老舗総合エンジニアリング企業です。
- ▶ 新築工事、リニューアル工事、省エネルギーの提案等、幅広いシーンでお客様のニーズにお応えして参ります。



▲ 業務風景



▲ 熱源トータル最適制御システム (E-SCAT)

会社紹介

東洋熱工業は創業以来 80 年に渡り空調設備を中心に設計・施工・メンテナンスに携わり、長年培った技術と経験をもとに、高品質な空調設備を提供している空気と水の総合エンジニアリング企業です。

当社の空調技術は東京スカイツリーや国立西洋美術館などの施設で活躍し、最先端の省エネルギー技術によって地球の未来を支えています。平成25年に建て直した東熱ビル（隈研吾建築都市設計事務所 監修）でもその技術が活かされ、「快適に仕事ができる空間」と「省エネ化」を兼ね合わせた建物となっています。弊社のインターンシップでは東熱ビルの技術を見学することが可能ですので是非参加してみてください。

学生に求めていること

学生時代には自ら進んで行動して様々なことを経験してください。当社ではチャレンジ精神旺盛で、自らの考えで積極的に行動できる「自立した人材」を求めています。

当社では特に新入社員教育に力を入れており、基本的人間力の養成と基本的技術力の習得に努めてもらい「技術の東熱」を体現する一流の技術者へ成長できるように教育しています。これからの東熱に新たな活力を与えてくれる皆さんをお待ちしています。

電大 OB・OG 活躍中

「社員の教育に力を入れている会社。」私が東熱に入社してすぐに持った感想です。空調設備とは無縁の学部でしたので、入社当初は仕事について行けるのか不安がありました。しかし、3ヶ月間の新入社員研修で丁寧に空調技術を教えて頂き、現場に出ても自信を持って働くことができています。

また、入社して驚いたことがあります。それは、東京電機大学と東熱の関係です。30名もの卒業生が東熱で働いています。それだけではなく、東京千住キャンパス、埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスを東熱が施工していました。多くの先輩が働いている会社なので、ぜひインターンシップや会社説明会などに参加してみてください。

(未来科学部卒 荒井万美子)

採用情報

TEL : 03-5250-4113

E-mail : jinji@tonets.co.jp

採用担当：人事部人事課 田邊・黒田

「何でもやります。 あなたに合わせて」 多品種少量に挑み続ける パイオニア



NIKKEI

企業プロフィール

社名	日計電測株式会社 NIKKEI ELECTRONIC INSTRUMENTS CO.,LTD
代表者	代表取締役 亀井泰平
本社	〒142-0063 東京都品川区荏原 4-14-7 TEL : 03-3788-1281 FAX : 03-3788-1286
URL	http://www.nikkeidensoku.co.jp/index.html
設立	1966年5月21日
資本金	2,000万円
従業員	26名 (うち東京電機大学卒業生7名)
E-mail	desk@nikkeidensoku.co.jp



卒業生・創業者・初代 代表取締役

亀井 邦夫

1954年 東京電機大学卒業

1966年 日計電測株式会社設立

卒業生・現 代表取締役

亀井 泰平

1986年 東京電機大学卒業

沿革

- 1964 年 11 月 ● 初代社長亀井邦夫、日計研究所を創業
- 1966 年 5 月 ● 社名を改めると同時に日計電測株式会社を設立
- 1972 年 9 月 ● 受注増加と大型試験機の製造増加に伴い、工場を新設する
- 1985 年 10 月 ● 受注・品種・工場設備の増加により、本社・工場を東京都品川区荏原に移転する
- 1998 年 4 月 ● 恒温・恒湿の試験室を新設、力試験機・検査機器を収納
- 1998 年 11 月 ● 3kN 実荷重式力試験機を購入する
- 1999 年 3 月 ● 通産省工業技術院 計量研究所より 3kN、100kN 力試験機に対し、jcss 校正証明書が発行されるこれにより力試験機から力基準機に名称が変わる
- 2009 年 4 月 ● 計量法のトレーサビリティ制度に基づく「力」区分の登録事業者に、独立行政法人製品技術基盤機構認定センター（IA Japan）の登録審査で登録した
- 2011 年 2 月 ● 亀井泰平が代表取締役に就任する
- 2016 年 5 月 ● 設立 50 周年を迎える

事業内容

- ▶ 特殊品の設計・試作及び製造
- ▶ 電気機械器具の受注製造販売
- ▶ 電気計測器・電子機器・測定器の受注製造販売
- ▶ 工業計測器・コンピュータ制御機器・周辺機器の受注製造販売
- ▶ 各種変換器・ひずみゲージ式変換器の受注製造販売
- ▶ 校正サービス
JCSS 校正サービス（区分：力・力計）
一般校正サービス
- ▶ 各種計測に関するコンサルタント・依頼計測業務
- ▶ 前各号に付帯する一切の業務



▲ 曳航力試験



▲ JCSS 校正試験

卒業から創業までの経緯

創業者である亀井邦夫は、大学卒業と同時に、計測・計量を手掛ける会社に就職。そこで 10 年近く勤務しましたが、この間、日本は高度成長期に突入し、製品を作れば売れる時代を迎えることになりました。こうした状況の中、次第に一部の顧客が困り始めるようになってきました。どこの会社も画一されたカタログ製品しか作らなくなったのです。

そこで、自ら独立し顧客ニーズに応えることを決意、創業を果たすに至りました。

創業直後は、ひたすら自分の足で顧客を回ったり、大手企業に勤める友人から仕事を分けてもらったりするなどして、創業の黎明期を乗り越えていきました。

その後、IHI などの大手企業からの受注に成功すると、その高い技術力・適応力が先方の社内で評判になり、顧客担当者が社内で PR をしてくれるなど、かなり早い段階で大手企業との取引口座を開設することができるようになっていったのです。

時代を見据えた企業精神

日計電測では、顧客が必要なものを必要な分だけ作っていく経営方針を今後も貫いていきます。特注品だけでは経営が安定しないと思われがちですが、優れた製品を開発し続けると、その需要は非常に長く継続するものもあるのです。

こうした地道な積み重ねが激動の時代にあっても安定経営を続けていける隠れた秘訣になっています。

今後も、測定技術の進歩に伴い、変換器・計測器・制御器の特注品や依頼計測の要望は増加していくものと予測されます。

日計電測では、各業界の要望に応じるべく顧客の要求仕様によるひずみゲージ応用機器を主体とした特注品の製造・販売と依頼計測に全力で取り組み社会に貢献して参ります。

これから社会に巣立つ君たちへ

「敵を作らないこと」が肝要です。創業者の亀井邦夫が日計電測を立ち上げた当時、力を貸してくれたのは友人でもありサラリーマン時代の同僚であり、取引先の方々でした。なぜ、人生の節目に周囲からの支援を受けることができたのか。その一つの答えが「敵を作らないこと」という亀井邦夫の人生哲学の中にあります。

「敵を作らない」とは、そう簡単なことではありません。

人間関係は鏡であり、自分自身が変わらなないと、鏡に映る像（他人の“私”に対する態度）は変わらない、ということを覚えておいてください。また、コミュニケーション能力も肝要です。ぜひ学生のうちに技術力だけではなく広い視野からご自身を磨くよう努力して頂きたいと願っています。

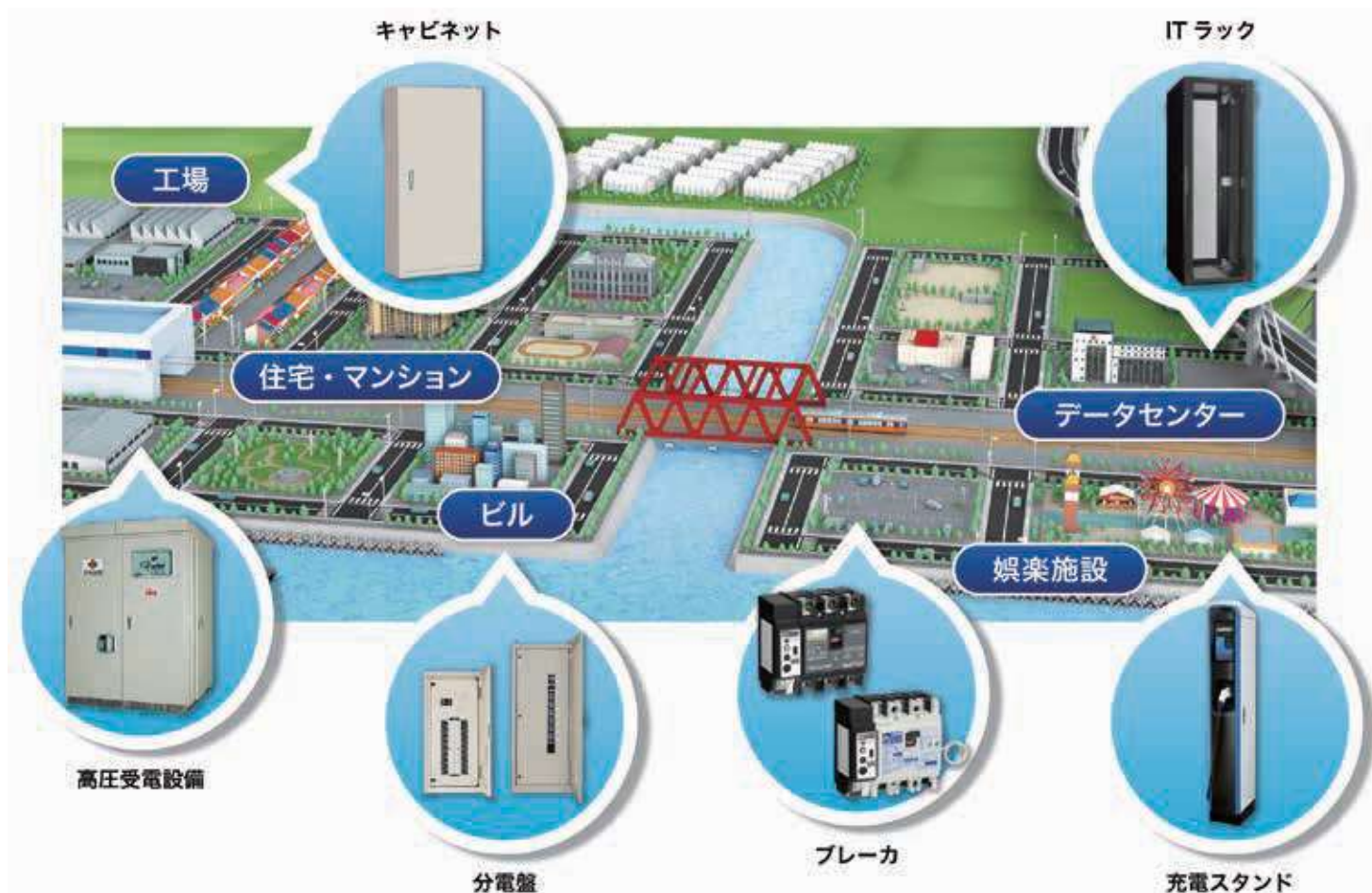
採用情報

当社にご興味・ご関心がある方はお気軽にお声がけください。
随時受け付けています。

TEL：03-3788-1281

担当：亀井、浦川、川守田

電気の安定供給に不可欠な 配・分電盤でトップクラス



企業プロフィール

社名	日東工業株式会社
代表者	取締役社長 佐々木拓郎
本社	〒480-1189 愛知県長久手市蟹原 2201 TEL : 0561-64-0113 FAX : 0561-62-1300
URL	http://www.nito.co.jp/
設立	昭和 23 年 11 月 24 日
資本金	65 億 7,863 万円



▲ 配・分電盤

サービス・製品などの写真と説明

配・分電盤は、電気を安全に分配するためにビルや工場等に必ず設置される設備です。ご自宅には勿論、学校の校舎の各階にも設置されているので探してみてください。配・分電盤の中には、ブレーカやスイッチ等が施設の電気使用用途に合わせて設計されています。配・分電盤は昔から使われている製品ですが、最近は電気機器の電力監視ができるものや、地震後の通電火災防止のため感震機能も備わったものなど、進化を続けています。

沿革

- 昭和 23 年 ● 愛知県瀬戸市に会社設立
- 昭和 42 年 ● 名古屋工場新設（現長久手市）
- 昭和 56 年 ● 名証第二部上場
- 平成 8 年 ● 東証・名証第一部上場
- 平成 16 年 ● 中国現地法人を設立
- 平成 20 年 ● タイ現地法人を設立
- 平成 21 年 ● 充電スタンドがグッドデザイン賞受賞
- 平成 27 年 ● シンガポール現地法人子会社化



▲ 本社・研究開発センター

事業内容

- ▶ 配電盤、分電盤、ホーム分電盤
 - ▶ 高圧受電設備
 - ▶ 金属製キャビネット、樹脂製ボックス
 - ▶ システムラック
 - ▶ 充電スタンド
- などの電気機械器具製造、販売



▲ OB（篠崎正樹 応用電子工学科卒）と担当製品

会社紹介

日東工業は、配・分電盤及び周辺設備の総合メーカーです。我々の製品が無くては、電気を安全、安定的に使用することができません。また、通信ネットワークの発達により通信機器が屋外にも数多く設置されるようになった現在では、通信機器を収納する我々のキャビネットは、精密な機器を外部環境から守るために無くてはならない製品です。当社は自社内に耐震・暴風雨・日射等の多様な試験設備を備えており、製品の品質の高さに定評があります。そのため大手自動車関連会社やインフラ会社との共同製品開発、大手通信会社からの大量受注などの実績も豊富です。働く場としても、技術職は、製品企画から量産化まで幅広い仕事ができ、「ものづくり」の楽しさを実感できます。過去 3 年平均の新卒 3 年後離職率 5% 以下と、働きやすい環境も整っています。

学生に求めたいこと

我々の製品無しでは電気を安全に使えない、世の中を支えているという誇りのある業界です。昭和 40 年代に標準配電盤という新しい市場を作り出し、安定した高い品質の製品を競争力がある価格で作りだしていきました。近年は新エネルギーの高まりやエネルギー管理などの環境変化に伴い、電気を安全、安定的に使うためだけでなく、家電ごとの電気をリアルタイムで測定・表示したり、地震後の通電火災を防止するなど新しい機能が求められています。しかし、安定した経営基盤であるがゆえかつて新しい市場を創り出したようなエネルギーが足りない、という危機感があります。広く視野を広げ、新しい発想で意欲的に取り組める方と一緒に、日東工業をさらに「強くて良い会社」にしていきたいと考えております。

電大 OB・OG 紹介

これまでに情報通信向けラック、電設 FA 向けキャビネットの製品開発・設計を行ってきました。自然災害、環境への対策や関連技術の革新などから市場の要求は刻々と変化しますが、お客様からの声、販売する方の声、設計した製品を作ってくれる方々の声を励みに、ものづくりの楽しさを体感し、また新たなチャレンジに意欲が湧いてきます。現在は、学生時代から苦手であった英語に追われながら、海外に向けた製品開発に挑んでいます。

（東京電機大学 理工学部 応用電子工学科 平成 11 年卒業 篠崎正樹）

採用情報

人事部人材開発課 採用担当者

〒480-1189

愛知県長久手市蟹原 2201 番地

TEL : (0561)64-0113 （直通）

E-mail : saiyo@nito.co.jp

WEB : <http://www.nito-saiyo.com/>

「どこにもない」を提案し、 「ここにしかない」を創造する。 技術商社の、その先へ。



MACNICA

企業プロフィール

社名	株式会社マクニカ
代表者	代表取締役社長 中島 潔
本社	〒222-8561 横浜市港北区新横浜 1-6-3
URL	https://www.macnica.co.jp/
創業	1972 年 10 月 30 日
資本金	111 億 9,426 万 8 千円



卒業生・創業者

神山 治貴

Kamiyama Haruki

1969 年 工学部第二部電子工学科卒業

卒業後、商社を経て 1972 年に(株)マクニカ創業、代表取締役社長に就任、日本有数のエレクトロニクス技術商社として東証一部上場企業に育て上げ、2010 年から現取締役会長。

(社)日本半導体商社協会副会長、東京電機大学理事、(社)神奈川ニュービジネス協議会会長、(社)経済同友会幹事を歴任。2013 年、(財)神山財団を設立、理事長に就任。2016 年、東京電機大学名誉博士。

また、2001 年より毎年東京電機大学に寄付金を寄贈、優秀な学生を表彰する学長賞や、家計急変により学費支弁が困難になった学生を支援するための「応急奨学金」創設に貢献。2016 年には留学支援のための寄付金を寄贈。優秀でグローバルな人材育成を目指す「東京電機大学神山治貴海外留学派遣奨学金」が創設された。

沿革

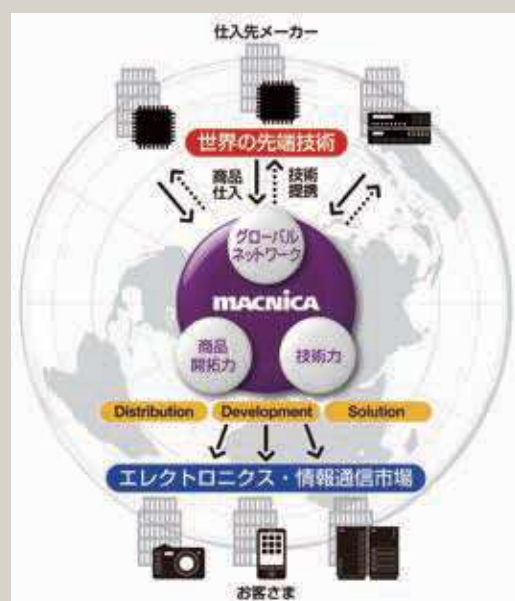
- 1972 年 ● ジャパンマクニクス株式会社設立
半導体商社業務を開始
- 1977 年 ● IC テスト業務など技術サービスを開始
- 1982 年 ● システム製品の販売を開始
- 1983 年 ● 川崎市中原区に本社ビルが完成
- 1990 年 ● 横浜市緑区に新本社ビルを建設、
本社機能移転
- 1992 年 ● (株)マクニカに社名変更
- 1998 年 ● マクニカ新横浜ビルを開設
- 2000 年 ● 東京証券取引所市場第二部に上場
- 2001 年 ● 東京証券取引所市場第一部に指定替え
- 2015 年 ● 富士エレクトロニクス株式会社と経営統合し、共同持株会社「マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社」を設立



▲ 本社

事業内容

- ▶ マクニカは、エレクトロニクス、情報通信業界をリードする国内外の大手電機・電子機器メーカーをはじめとするお客さまに、半導体、電子デバイス、ネットワーク関連機器、ソフトウェアなどの高付加価値商品とサービスを提供しています。



働きながら学んだ電子工学

私が半導体と出会ったのは、アルバイトの貿易会社で技術文献を翻訳していた時に、世界で初めて3個のトランジスタからなるリニアICの翻訳に携わったことがきっかけです。

まだ21歳でしたが「将来は30個も300個も入る」「半導体を制するものは世界を制する」と直感的に思い、非常に衝撃的でショックを受けたのをよく覚えています。

その後、半導体関連の仕事に就き、そこでの半導体ビジネスの経験から、「将来半導体は世界を制する」という確信を持ち、1972年、26歳でマクニカを起業しました。

世界がコンピュータ化を迎えたばかりの時代に、コンピュータを知るには電子工学を知らなくてはと、働きながら東京電機大工学部第二部で学んだことは、今の私の礎になっています。

グローバル企業「マクニカ」

1972年の創業以来、マクニカは技術サポートに力を注ぎ、技術の深化を推し進めてきました。業界に先駆け、技術支援重視の事業スタイルを確立。「技術商社」という新しい商社像を打ち立てました。マクニカならではのと評される卓越した技術力。世界中で次々と生まれる将来性豊かなベンチャー企業とのビジネス展開の中で培ってきた商材開拓力。真のニーズを見出し、最適解を導き出す企画提案力。こうした持てるポテンシャルを最大限に活かし、マクニカは、お客さまの価値の最大化に努めています。

また、米国、欧州、アジアにも進出を果たすなど、グローバル・ネットワークの拡大にも注力。世界市場を視野に入れ、現在は世界18カ国70拠点をベースに、グローバルなビジネスを展開するなど、日本のオンリーワンから、世界のオンリーワンを目指しています。

次代を担うみなさんへ

「夢は大きく！失敗を恐れず何でもTRY！」

現在のマクニカになるまで、何度もお取引先様などに助けていただき、苦難を乗り越えながらもここまでやってこられたのは、夢を大きく持ち、あきらめなかったからだと思います。

夢や目標は、大きく持てばもつほど高い到達点を目指すことができます。これから次代を担うみなさんにも、ぜひ夢は大きく！失敗を恐れず何でもTRY！して、大いに飛躍していただきたいと思います。

採用情報

定期的には新卒・中途採用を行っております。
募集職種、募集要項等は下記ホームページをご確認ください。
<http://recruit.macnica.co.jp/>

【お問い合わせ先】

〒222-8561

神奈川県横浜市港北区新横浜1-6-3 マクニカ第1ビル

人事部採用課 新卒・中途採用係

TEL：0120-300-022

三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社
は、**人**と**技術**と**品質**で最善のサービスを目指し
顧客の**信頼**を築きます。



進化し続けるモノづくりに
サポートサービスの進化を。

三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社

企業プロフィール

社名	三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社
代表者	代表取締役 福島 司
本社	名古屋市東区大幸南1丁目1番9号
創業	昭和54年8月1日
資本金	3億円
株主	三菱電機株式会社
事業内容	放電加工機、レーザ加工機、数値制御装置（NC） など産業メカトロニクス製品の据付調整、保守点 検、故障修理、加工技術指導、周辺装置などの開発、 製作並びに販売

IoT への取り組み

IoT 技術を活かしたリモートサービス「生産・保守をとりまく最新情報をいつでも、どこでも、製造現場を支援するあなたのために」をコンセプトとした iQCareRemote4U を三菱電機と一体となって展開しております。

IoT 技術を活用して稼働状況を確認することにより生産プロセスの改善・ランニングコストの低減に貢献することや、ユーザ加工機と当社コールセンターを接続することでトラブル時の加工機の不具合内容を遠隔診断することができます。



沿革

- 昭和51年8月10日 ● 三菱電機（株）名古屋製作所放電加工機 サービス部門を分離独立し、株式会社ダイアックスサービスを設立。
- 昭和54年8月1日 ● 三菱電機（株）名古屋製作所数値制御装置サービス部門を分離独立し、株式会社メルダスサービスを設立。
- 昭和55年10月1日 ● 株式会社メルダスサービスが株式会社ダイアックスサービスを吸収合併し、菱電工機サービスエンジニアリング株式会社と社名変更。
- 昭和59年10月1日 ● 菱電工機エンジニアリング株式会社に社名変更。
- 平成28年4月1日 ● 三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社に社名変更。
- 平成28年10月1日 ● メカトロサポートセンタ竣工。

メカトロサポートセンタ設立について



▲ メカトロサポートセンタ
所在地：名古屋市東区（本社敷地内）

平成28年10月に竣工したメカトロサポートセンタは新製品投入を見据えた保守・修理能力の強化、研修、トレーニング環境の充実によるサービス技術力強化、自動化ソリューション・リモートサービス事業効果によるサービス訴求力強化を目的としています。

1階にはリモートサービス展示ルームがあり、IoT技術を活用したサービスを実際に体験することができます。



▲ レーザ加工機

会社紹介

創業以来三菱電機メカトロニクスエンジニアリングは、三菱電機の産業メカトロニクス製品の品質管理、保守、リニューアルをはじめとした、エンジニアリングサービスを提供し続けてきました。そして、今後もグローバルな展開が続くメカトロニクス分野の最先端を歩み続けるため、エンジニアのスキルアップ、最新技術の導入、より良いサービスを提供するための改革など、技術力の進化に努めてまいります。



▲ 本社（所在地：名古屋市東区）

学生に求めていること

1. 広い視野で物事を考えられる人

物事を様々な方向や角度から見ることは、日々発生する問題を解決するために重要な要素です。また自分自身が成長するためには、幅広い経験を積むことが必要であり、この経験を積むためにも常日頃から様々なことを大きく広い視野で捉えることが重要です。

2. 深い洞察力で真実を追求できる人

物事の全体像は表面上見える部分だけでは把握できません。むしろ見えない部分にこそ重要なことが隠れていることが多く、常に物事を深く鋭く観察し、本質について考える必要があります。

3. 何事も最後まであきらめない意思を持つ人

最後までやり遂げるためには自分自身の信念を持ち、粘り強く進める必要があります。逆境にぶつかってもあきらめずに挑戦し続ける姿勢が重要です。

OB・OG 情報

当社では22名の東京電機大学OB・OGが入社しています。また、当社役員にも1名東京電機大学OBが在籍しております。

≫ 採用情報（採用関係連絡先）

採用に関するお問い合わせは下記にご連絡お願いいたします。

本 社：〒461-0047
愛知県名古屋市東区大幸南1-1-9
大幸ビル
TEL：052-722-8255

採用担当部署：総務部 人事課

東日本支社：〒336-0027
埼玉県さいたま市南区沼影1-18-6
三菱電機東日本メカトロソリューションセンタ内
TEL：048-710-4533

採用担当部署：東日本支社 業務部